



フードバンク関西ニュース

2004年 10月3日 第4号

フードバンク関西は食品関連企業から余剰食品を

受け取り、支援を必要とする人達を支える非営利団体にそれらが無償提供する活動をしています。

2004年10月3日発行
NPO法人フードバンク関西
事務局
尼崎市南清水37-14

主張

捨てられる食糧

理事長 藤田 治

I 狸御殿の怪

生産したエネルギー以上にエネルギーを消費する事は、それは生産でなく、消費と考えるのが妥当です。一般にエネルギー産出投入比（生産性）は、「産出エネルギー」÷「投入エネルギー」で求められます。水稻の場合、1990年のこの比率は

「2エネルギー」÷「10エネルギー（労働、及び化石燃料）」＝0.2

でした。これは、10のエネルギーを投入したにもかかわらず、産出はわずか2だったという意味です。これが続けば、地球のエネルギーは絶え間なく枯渇していく事が理解できます。

私達は、今、大量生産・消費・廃棄文明を享受していますが、この文明永続は不可能です。しかしメディアは、連日大きなスペースを割いて、国民の関心の強弱を測りつつ、経済成長の伸びがあれば喜びの、低下があれば嘆きの報道をします。私達日本人の多くが、「進歩教」の信者である事を、図らずもその報道は明らかにしています。しかし、その宗教は邪教。それに帰依する事は、ことさらに奇妙、奇天烈です。これはもう、狐に化かされ、挙句の果てに、飲んで、歌って、踊っている文明の終焉の図に他なりません。以下、その奇妙な態様の数々です。

II 飽食の行方

航空会社キャセイパシフィックの機内食にかかわる決まりは、「お客様は神様」の基本方針を踏まえて、「万が一にも不足が起こってはならないので、何時も満席分を準備する。」「乗客の希望に応じられるように、複数のメニューを揃える。」この2点です。ところで、このシステムだと、少なくとも半分は手付かずの食事が残ります。これら手付かずの食事は、全部廃棄されます。日本では、「機内食は輸入品」とみなされるからです。

レストランの客は、大量の注文を出します。その結果、約30%の食べ残しがゴミとして捨てられます。以前は食べ残しを持ち帰っていましたが、今では誰も持ち帰ろうとはしません。また、レストランでは料理の過程で生じる使い残しはもとより、手付かずの材料もゴミ箱に捨てます。加工して使うより捨てた方が安くつくからです。レストランのシェフは、「勿体無い、仕方がない。」と繰り返します。この人達の年齢は50～60歳代、終戦後の食糧が乏しかった頃を記憶にとどめている世代なので、食べ物を捨てる事に後ろめたさを感じているのです。

焼きたてが自慢のパン屋では、前日のパンを売ると信用を失うので、すべて廃棄します。あるパン屋の店主夫妻は廃棄の際、感謝と罪滅ぼしの気持ちを込めてパンをかじります。この儀式だけは、決して欠かしません。

一体、私たちは毎日どのくらいの残飯を捨てているのでしょうか。それぞれの家庭から出る食料ゴミ、飲食店やホテルからの残飯、コンビニから捨てられる弁当などがあります。コンビニから捨てられる弁当などは、とても残飯などと呼べません。コンビニ企業1社から1年間に、約5万人が1年に食べるのと同じ量のご飯、2千5百トンが捨てられています。さらに惣菜産業など食品加工業者が、生産の過程で捨てる原材料も相当な量になります。

平成10年度に日本国内で捨てられた残飯の量は、約700万トン。この価格約11兆円は日本の農林水産業の年間生産額とほぼ同じ額です。つまり、これは日本の農家や漁師などが苦勞して作った米やキャベツ、リンゴ、魚類、肉類などを全部捨てているのに等しい額です。また、残飯量をカロリーに直すと、日本人の一人当たり摂取熱量2000キロカロリーの約3分の1に相当し、3食、食べた上に1食分を捨てている計算になります。このため、家庭ゴミの7.7%を食糧ゴミが占めています。アメリカでも日本とほぼ同じ割合で捨てられています。日米約4億人の食べ残し分と食べ過ぎ分を、もし援助に回したら、飢えに苦しんでいる12億人を十分に救う事が出来ます。(飢餓の病根は貧困ですから、実際に援助をする必要があります。)

日本の食糧自給率は今、40%に過ぎません。そのため日本は、金額で世界一位の農水産物純輸入国であり、とりわけ高価な食材を独占的に輸入しています。96年度のエビ輸入量は世界の貿易量の約25%、世界三大珍味キャビアは同68%、マグロの生とチルドの輸入量も同50%を占めています。その結果というべきか、その恩恵というべきか、日本人30代男性の3人に1人が肥満気味です。

栄養不良とは、「健康な生活を送るのに必要な栄養の摂取が偏っている事」と定義されます。従って飢えに苦しむ12億の人々はもとより、食べ過ぎの12億の人々も栄養不良です。二極いずれにしろ、栄養不良は子供の知能と身体の発達を妨げます。栄養不良の問題を放置すれば、その国の未来は暗いものになるでしょう。富裕層の食い散らかしは、共有資源の枯渇を招き、発展途上国に単一生産への特化を余儀なくさせ、結果として飢餓人口を増加させます。一方、豊かな人々の、「高カロリー・高脂肪の食事は、肥満を促進し、肥満は心臓病、脳卒中、糖尿病、そして各種がんのリスクを上昇させる。この4つの病気は、先進国におけるすべての死亡の半数以上の原因となっている。高カロリー、高脂肪の食事は、高血圧と動脈硬化を促進し、これらがさまざまな変性疾患の追加的危険因子」になっています。また、世界がん研究基金と米国がん研究所によれば、食生活の変更だけで世界すべてのがんの30~40%を予防できると報告しています。

Ⅲ 宇宙船地球号

一方で飢えて死ぬ人がいる。なんと悲惨な事か。他方には飽食で死ぬ人が絶えない。なんと愚かなことか。なぜ飽食の部分を分けてやれないのか。お互い死を免れるではないか。

しかもそれぞれが宇宙船地球号、全人類を乗せた地球という名の小さな船の中でなされている。

「早く目を覚ましなさい。」と大いなる方は「肥満・病気」という形でシグナルを送っているのです。シグナルを無視した時、人類は本当に破局をむかえるでしょう。

この船には、水さえ満足に飲めずに飢え、あるいは飢えに怯えて暮す人々が多数乗り合わせています。この人達はもとより、飽食の階層に属する人々の日常も、「心」をないがしろにした「マネー中心文明」の中では、決して安泰ではありません。その中でも特に、持てば持つほど飢餓感が増えるといわれる「欲望の法則」に取り付かれた一部の富豪は、その飢餓亡霊のとりこから抜け出せず、無限地獄に陥っています。彼らはまた、常に身の危険に怯え、財産を狙う禿鷹に用心するなど、心をさいなまれ続けています。彼らの上に平安な日々は訪れません。

そこで、唯一、この宇宙船地球号の乗客全員が生き残れる方法は、「共生」に進む道の模索のみです。

附則

食の問題を考え、支援者、協力者同士のネットワーク作りを目指すフードバンク関西

これまでの福祉関連のNPO法人やボランティア団体の多くが、各団体、施設、個人が個々に支援活動を行うケースがほとんどでしたが、フードバンク関西は「生きる」というテーマのもとで、支援物資の収集と配布を通じて、新たなネットワーク作りを試みています。

日々、売れ残った商品、消費、賞味期限の迫った食品、過剰生産された商品、傷やパッケージ破損等、店頭で商品として扱えなくなった物品が、食品、家庭用品としての価値を充分持っているにもかかわらず、産業廃棄物として安易に捨てられています。私達、フードバンク関西は、これら物品がその価値に相応しい活用がなされるように、取扱業者から無償提供を受け、それらを有効に活用してくださる、生活弱者を支援する団体や組織に分配をする活動を本来事業とするNPO法人です。このような活動を通して、より多くの方が内容豊かな生活を楽しむ事が出来、コスト計算ばかりが優先して安易に廃棄する社会にささやかな反旗を翻す事を意図しています。もし、そのような情報がありましたら、是非、事務所までご連絡をいただきたいと存じます。提供者となりうる企業と交渉をし、理解を求め、無償提供を受け、それらが有効活用されるよう、必要とする団体、施設、組織への分配の方法を考えていきます。

フードバンク関西は、炊き出しを行う支援団体、知的身体的な障害を持つ人々をサポートしている団体や組織、および緊急に生活支援を必要とする人達を支援する団体や組織との横のつながりをつくり、情報交換や緊急必要物資等の融通、人的サポートをアレンジし、よりスムーズな支援、援助が柔軟にできるように活動を続けていきます。

次の文献から1部引用しました。 川村直子 福祉型自立の障壁と課題

フードバンク関西の最近の活動

毎日のデリバリーに加えて下記の活動や行事をしました。

- | | |
|------------|--|
| 7月31日～8月9日 | 釜が崎支援機構からの依頼を受けて輪番労働者検診の朝食を調達し配送しました。延べ1850食（ロールパンと紙パックコーヒー） |
| 8月14日 | 理事会及びボランティアミーティング 尼崎市労働福祉会館午後1時半 |
| 8月31日 | フードバンク関西、平成15年度の年度末を迎えました。初年度終了。 |
| 9月4日 | 「まちの作業所生産品バザー」参加者意見交換会 午後1時半 理事会及びボランティアミーティング 午後3時 尼崎市労働福祉会館 |
| 9月18日 | 土谷さん、神戸東灘でフリーマーケット出店 数人で手伝いをしました。 |
| 9月26日 | 第4回「まちの作業所生産品バザー」開催カルフルニ崎店1階モール |

暑い夏、大型冷蔵庫、冷凍庫活躍。

今年の夏は酷暑でした。ちょっと食品を保管するにも常温の室内にはとても置けない毎日でした。木口ひょうご地域振興財団の助成金で購入させていただいた業務用大型冷蔵庫を活用して、何とかこの暑かった夏を乗り越える事ができました。一同、感謝です。

大阪西成区の輪番労働者検診の朝食調達

去年に続き今年も、毎週食品を提供している釜が崎支援機構のシェルターで行われる、輪番労働者検診時の朝食の調達を依頼され引き受けました。ロールパンと紙パックコーヒーを各業者さんに注文し、1人用に袋詰をして、この間日曜日を除く8日間、延べ1850食、毎朝ボランティアがシェルターに届けました。忙しかったです。

初年度年度末を迎える事ができました。

1月26日に発足した特定非営利活動法人フードバンク関西は、皆様の暖かなご支援とご協力を得て、8月31日に初年度の年度末を迎える事が出来ました。決算、総会の準備と多忙な日が続きます。第2年度もさらなる発展を目指し、皆で力をあわせたいと思います。

第4回 まちの作業所生産品バザーが開催されました。

9月26日、第4回「まちの作業所生産品バザー」をカルフルニ崎店1階モールのエスカレーター横のスペースをお借りして、開催しました。近隣の秋の諸行事と重なったためか、午前中の人が出が少なめで、売上げも今回は期待ほどではなかったようでした。各作業所の生産品がとても工夫され、買いやすい、魅力的な商品が多くなったように思いました。次回は11月中旬の予定です。今から皆で楽しみにしています。

今後の予定

- 10月16・17日 神戸クラブ主催「グローバルチャリティフェスティバル」参加
- 10月23日 理事会及びボランティアミーティング 年度末諸手続の重要会議です。
- 11月21日 第1回定例総会 正会員の皆様のご出席をお願いいたします。